

市川新教育長に突撃インタビュー!!

令和7年度から、新たな教育長として市川俊実氏を迎えて、始動した町教育委員会。町立学校の再編や学校給食センターの更新など、待ったなしの事業が控えている。新教育長の素顔はいかに…横顔にも迫ります。

小川町は教育者としての「ふるさと」です



小川町の多くの方々に支えられてきた私にとって、小川町は教育者としての「ふるさと」です。そのふるさとをより良くするための教育課題は山積ですが、学校再編や部活動の地域展開、不登校対策等の課題、さらにこれまで継続してきた「おがわ学」の進展等に改めて気を締め、情熱と使命感を胸に取り組んでまいります。

シリーズ

16人の一步!! 進み続ける議会

「議員定数検討特別委員会」からの報告 委員会報告から次回選挙に向けて

特別委員会の設置から半年。これまでに7回の委員会を開催し「定数」の在り方について議論を重ねてきた。大正大学の江藤俊昭教授（公共政策学科）から講義を受ける中で、議員力・議会力の不足を痛感する。ともに「議員定数」について考えてみませんか。

これまでの議論と歩み



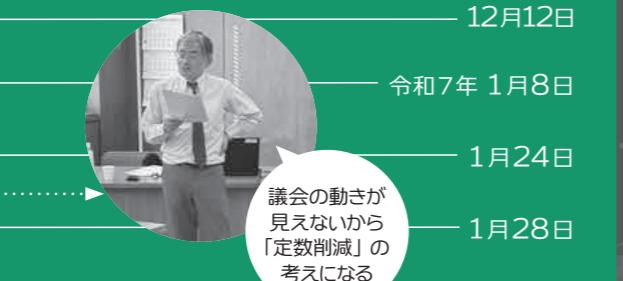
定数16人

現状維持／

- 女性や若者候補が出やすい!
- 地域の声を届けられる!
- 少数意見も議会に届けられる!

見直し・削減／

- 議論がまとまりづらい!
- 人口減少の中、定数・議会費の削減も当然!
- 議員間での活発な議論こそ必要では?



多様な意見・考えが議会に反映される

減らしても住民の意見を聞く力が落ちるのは言えない

議員の資質向上が人数の問題を解決していくのでは

議員の最大の仕事・責任は「議決」。質疑や質問が活発に

新型コロナウイルスの影響で「動けなかつた」議会が今までにないハイスピードで進み続けている。議会初となつた「ブレ地区懇談会（P2～3参照）」の開催・「議員定数を検討する特別委員会」の設置など、時代にマッチした「動く」議会にリニューアル中である。今任期も9ヶ月で折り返しを迎えるが、後半の2年間に突入！この歩みは止まらない！

Q 教育長として目指す町教育の在り方は？

A 公教育の軸をしっかりと立て、社会に貢献できる力を養うことが重要と考えています。0～15歳のスパンで出口を見据え、切れ目のない教育体制を築いていきたいです。これまで以上に現場へ通います。

Q 小川町との関わりは？

A 旧上野台中や東中、役場での勤務経験（計16年間）があります。やっぱり「陸上競技」のイメージが強いでしょうか（笑）。今回の件もそうですが、小川町には「縁」を感じています。

Q 小川町の良いところは？

A 自然が豊かで伝統文化が息づく町。何よりも、魅力的な「人」が多いところですね。

Q 初めての議会（令和7年6月3日開会）に向けて意気込みを！

A 学校教育だけでなく、生涯学習の分野も所掌しています。精一杯取り組みますので、お手柔らかにお願いします（笑）。

